

令和2年度第3回浜松市男女共同参画審議会 会議録

- 1 開催日時 令和3年2月18日(木) 午前10時から午前11時25分まで
- 2 開催場所 浜松市役所 本館8階 第4委員会室
- 3 出席状況
 - (1) 出席 犬塚協太委員、鈴木由貴委員、中田明子委員、名波弘充委員、藤井信男委員、峰野由美子委員、谷野富久恵委員、山本みさ子委員、和田清子委員 ※50音順
 - (2) 事務局 奥家章夫市民部長、新谷直幸UD・男女共同参画課長、河合多恵子UD・男女共同参画課長補佐、森田毅彦共同参画グループ長、池田真梨子主任
- 4 傍聴者 7名(一般:5名、記者:2名)
- 5 議事内容 第3次浜松市男女共同参画基本計画の一部見直しの検討について
- 6 会議録作成者 河野勝子
- 7 記録の方法 発言者の要点記録(録音の有無:有)
- 8 配付資料
 - (1) 次第
 - (2) 第3次浜松市男女共同参画基本計画の一部見直しの検討について【資料1】
 - (3) 第3次浜松市男女共同参画基本計画(概要版)【資料2】
 - (4) 第3次浜松市男女共同参画基本計画事業一覧【資料3】
 - (5) 第5次男女共同参画基本計画(説明資料)【資料4】
 - (6) 第3次静岡県男女共同参画基本計画【概要版】(案)【資料5】
- 9 会議記録 次頁以降のとおり

1 開会

事務局

令和2年度第3回男女共同参画審議会を開催する。

2 議題

第3次浜松市男女共同参画基本計画の一部見直しの検討について

事務局

第3次浜松市男女共同参画基本計画の一部見直しの検討についての説明。

犬塚会長

事務局から「第3次浜松市男女共同参画基本計画の一部見直しの検討について」の説明を受けて、これについて各委員からご意見等をいただきたい。

名波委員

見直しの視点については大変良いと思う。意識改革をどうするか、特に男性の意識や若い女性の意識をどう変えていくかが重要である。また、コロナ禍において家庭崩壊などの問題が見え隠れしており、そこには社会の仕組みや制度が大きく関わっている。男性は長時間労働によって家庭に関わる割合が低く、子育ては女性の役割であるという性別役割分業の意識から脱却できていないのが問題ではないかと思う。それをどのように一人一人に理解してもらい、意識を変えていくことが課題であると考えている。

事務局

意識の問題、コロナの影響の問題は大きく関わり、大きな視点になると思われる。貴重な意見をありがとうございます。

藤井委員

今の状況は通常の世界情勢ではないので、見直しは必要である。自助、共助、公助は大事であり、平時には自助に力を入れれば良いが、今の状況では公助が重要である。以前、リーマンショックの時に学校教育に関わっていたが、その時には母子家庭や外国人の非正規雇用など、弱い立場の人たちが給食費を支払えないといった大変な状況であった。今回の見直しにあたり、経済的に弱い立場の人たちへの施策の強化が重要であると考えている。

山本委員

見直しには賛成である。コロナの収束が見られるようで見られない状況のなかで、生活に困難を抱える男女への支援、女性に対するあらゆる暴力の根絶等を重点的に進めていただきたい。審議は来年度以降となるが、今後、有効な計画の見直しを望みたい。

中田委員

コロナの影響で仕事を失った女性もいる。意識改革も大切であるが、リソースが限られるなかで、より生命を守ることに集中できればよい。生活に困難を抱える方への支援、あらゆる暴力の根絶等のより命を守る対策に重点を置いた方が良いと考える。

事務局

浜松市の状況について説明をさせていただく。浜松市DV相談専用ダイヤルの相談件数は、緊急事態宣言が発出された春頃は一旦減少した。在宅が増えて加害者が家にいることにより、被害者が相談できない状況であったことも理由の一つと考えられる。その後、相談件数は6月から7月に増加し、夏以降は例年と同程度の状態であった。

ただし、個々の案件を見ると、経済的な問題を含め、深刻な案件が増えているという印象である。浜松市として、このような状況で、どのような対策が立てられるかを考えていかなければならない。

名波委員

成熟した社会を実現するために、ダイバーシティを積極的に受け入れていくことが大切であり、その一環として男女共同参画は欠かせない。男性の家事育児参画への理解の促進について、中学生等の若年層へのアプローチは重要であり、学校教育の場へ積極的に働きかけた方がよいと思う。

事務局

本年度、提案事業の中で親子参加型の料理体験講座を実施したところ、非常に人気があった。男の子の参加もあり、非常に意欲的に取り組んでいる様子であった。現在、当課では家事サポートブックを作成中であり、若い夫婦にも利用していただけるような内容としている。また皆様にもご案内したい。

犬塚会長

各委員のご意見に異論はなく、それぞれ建設的で的確なご指摘をしていただき、賛成である。今回の計画の一部の見直しについては、全面的に変更するのではなく、現計画の補強等を積極的に実施していくということである。

喫緊の課題は、コロナ関連の対策を進めなくてはいけないということである。DVの増加や内容の深刻化は懸念される場所であり、対策としては、例えば、相談を気軽にできるスキルやツールの改革が考えられる。コロナの影響で加害者が在宅にいる時間が長くなり、被害者が目立たない方法で相談できるような工夫をする必要がある。

以前、学校が長期間休校になった際に、京都大学を中心に全国の緊急家庭調査が行われた。コロナ禍の共働き家庭における家事育児負担について、「増えた」と答えた男性は1割程度であったのに対し、女性は4割近くであったことから、男女間の意識の格差がはっきりと結果として表れた。性別役割分業の意識が変わっていないため、女性の家事育児の負担が非常に増えている傾向があり、家庭、職場、学校、地域を問わず、社会的な問題としてとらえ、意識を変えていかななくてはならない。具体的には施策の方向性「仕事と生活の調和の推進」の中の「男性の家事・育児などへの参画促進」をより強化して取り組む必要がある。家事のハードルを下げ、男性の家事参加のきっかけをつくることは大切である。先ほど料理講座の話があり、将来を担う若い世代の意識改革も大切であるが、そこに父親が一緒に参加することも重要である。

コロナの影響により、状況が深刻化していく人達にも格差があり、特に母子家庭や非正規雇用など、弱い立場の経済的に脆弱な基盤しか持たない世帯に負荷がかかっている。

資料5の県の計画の概念図を見てもらいたい。図の中央に「家庭」があり、その外側に「地域」「職場」がある。太矢印は男性がもっと中央の「家庭」に関わらなければならないことを表している。この図の両側にある斜線の三角形の部分は、家庭・地域・職場からも孤立しやすい母子家庭やDVを受ける女性、非正規雇用等の弱い立場の人たちを表しており、これらの人たちが生活基盤を崩し、社会からこぼれ落ちていくことが懸念される。図は家をイメージしており、これら全てを支える基礎部分である「安

全安心」の土台を盤石なものにしなければならない。

市の計画においては、資料2の施策体系図⑥の「生活に困難を抱える男女への支援」の中の「ひとり親家庭等の自立支援」「女性であることで複合的に困難を抱える人への支援」について、具体的な施策の中に取組を盛り込んでいくことが大事である。暴力の問題も同じである。

資料4の国の第5次男女共同参画基本計画では国際社会において日本がどう見られているかということが強く意識されている。「社会情勢の現状、予想される環境変化及び課題」の(8)ジェンダー平等に向けた世界的な潮流について、日本は国際社会において特に政治・経済の分野で遅れており、この点を意識しなくてはならない。それが典型的に表れる分野の一つが暴力の問題である。DVや性暴力の問題等が放置されたり、二次被害が発生したり、男性の認識の遅れにより性的同意の重要性が無視されることがある。今回の国の計画では、第5分野の中で今後3年間を集中強化期間としており、国際社会における日本の遅れを意識している。第7分野において緊急避妊薬の検討が盛り込まれており、リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立った取組として重要である。第6・7分野の柱に重点をおいて強化していくことが、浜松市の計画見直しのポイントとなると考える。

女性の自殺率が高くなってきており、特に若年世代で顕著である。親の経済的理由から退学を余儀なくされたり、食糧がない、大学へ行けない、友達もできないなどの相談も受けている。これらは、より弱い立場の方への支援を考えるにあたり、限られた経済的資源をどこに特化して注入していくかの考え方の基本になる。

和田委員

今の大変な状況の中では、自助は限界に来ているが、公助も財源不足など非常に厳しい状況と思われる。大変な時であるほど、自助、共助、公助の三つが大切となってくる。海外の様子を見ると、政府が支援してくれず、地域では貧しい人が貧しい人を支える現状もあると聞く。私たちはもう一度、自助、公助、共助の三つが揃って支え合っていく社会でなければならない。公助に期待したい部分もあるが、今まで以上に浜松市が「個の力を発揮する」「地域で支え合う」「社会が支える」、この三つを段階的に強くしていかないと、住みやすい浜松市になっていけないと思う。

犬塚会長

自助、共助、公助については、それが同等や優先順位があるという考え方には問題があると思う。「まず自助ありきであり、足りない部分は共助であり、最終的には公助である」という政治的にも発言があったが、非常に問題があると思う。自助努力、自己責任といった考え方がはびこり過ぎたために現在の状況になっている。自助・共助・公助の優先順位はむしろ逆だと考える。

和田委員

自助を優先するということではない。社会で言われていることは自助に頼りすぎていて公助が十分にできていないということである。自分が言いたいことは、優先順位をつけるということではなく、小さいものでも小さいなりに力を発揮し、その中で三つがバランスをとって将来的にもっといいものができればよいと思っている。この状況を乗り切るため、それぞれに自助や地域における共助をできる限り頑張っており、

その意識についてもとても重要であるということ言っている。誤解がないようお願いしたい。

犬塚会長

それについて全く異論はない。自助には限界がきている部分があるので、そこをどうしていくかを話し合っていかなければならないと感じている。

谷野副会長

コロナの影響により、弱い部分がより鮮明になり、格差が大きくなり、誰もが責任を取らなくなっている気がする。家庭の中でもそれぞれの責任が十分に果たされていない。また、地域の中でも繋がりが希薄なため、いい意味での責任が果たされていない。国や地方自治体でもそれぞれの責任を押し付け合っている。その中で若い世代の人達が未来に希望を持ってない状況であることや、女性の自殺者の増加など、悪いスパイラルに陥っていると感じている。

国の第5次男女共同参画基本計画について、女性の活躍推進の部分では、202030目標の上層部の一部の女性活躍の部分にスポットライトがあたり、女性の非正規雇用等の生活に困窮している人たちを拾い上げるということについては表れてないと感じる。

今回の基本計画の一部見直しについては必要だと思うので、ぜひ見直しをして推進していただきたい。資料5の県の計画の概念図から、土台を作る教育の部分では、若い人への人権教育をより手厚くしていけば、誰も責任を取らない社会を変えてくれると思う。人権教育に力を入れて、見直しを進めていただきたい。

名波委員

現在、「子ども食堂」を立ち上げるという試みを計画している。休校時、給食が無いと日々の食事がとれない子供がいる。自治会長である私のところや民生委員のところに「食べるものをください」と相談がある。生活保護の件数も増えている状況である。年金や税金、雇用、学校教育、保育等の公助において、まだまだ不足している部分がある。それだけに甘えてはいけませんが、親が雇止めなどで職を失い、経済的に困窮している問題が生じていて、貧困や格差の問題に直面している。その点をどうしたらよいか考えていかなければいけないと思う。

犬塚会長

中田委員が都合のため、ここで退席となる。今年度の審議会についてのご意見やご感想等を伺いたい。

中田委員

浜松市において、どのような活動したら男女共同参画社会を作ることができるかを考えて応募させていただいた。ここでは勉強させていただくことが多かった。これからも勉強や活動を続けていきたい。

犬塚会長

それでは審議に戻り、その他何かご意見はあるか。

犬塚会長

今回の国の計画は、防災について意識したものとなっている。現行の浜松市の計画

においても防災は含まれているが、男女共同参画の視点に立った防災対策の推進について、より力を入れていく必要がある。防災といっても、コロナ以前とコロナ以降では大きく変化しており、例えば、避難所運営についても様変わりしている。コロナと災害が同時に発生した場合にどうするかなどを含め、様々な場合を想定し、最新の動向を踏まえ、男女共同参画やダイバーシティの視点から推進し、昨今の災害多発状況を考えて、より力を入れるべきと考える。

浜松市はパートナーシップ宣誓制度を実施しており、性の多様性への取組みにも力を入れている。学校を始め、様々な場面で啓発を進め、地域での理解を広めていくことが大切である。防災にもこの視点を取り入れることが必要である。

男女共同参画意識は男女間での格差だけでなく、世代間での格差も明らかである。現在の意思決定を握る権力者の立場の人たちの世代では、古い価値観を持っている人は多い。一方で、若い世代性は急激に変わってきている。性的マイノリティの権利についても若い世代では当たり前を受け入れられている。計画の見直しにあたり、若い世代の意見を取り入れることを提案したい。例えば、ITツールを使用した方法で、若い世代の意見を吸い上げることを考えていただきたい。今回の国の計画では若い世代からの意見聴取を計画に反映させている。新しい取組としてチャレンジしてもよいのではないかと。

犬塚会長

計画の一部見直しの検討については以上となる。本日が今期最後の審議会となるので、委員の皆様感想、コメント等を伺いたい。

和田委員

新聞に「しばらくは 離れて暮らす コとロとナ 次会う時は 君という字に」という短歌が掲載されていた。君という字はコ・ロ・ナで構成されており、様々な発想があると感じた。今回、委員になって大変勉強になった。地方防災会議の女性委員が少ない理由として、委員は公共機関等の推薦者であり、実務者から選出されていないため、女性の登用が少ないと聞いた。今後、実務者や実践者が関わる事ができる浜松市であったらよいと思う。

鈴木委員

3年間委員を務めさせていただいた。第1回目の審議会に出席した時に、男女共同参画はとても大切なことであるが、このまま進んでいったときに、今度は男性が苦しい状況になってしまうのではないかと感じた。本日の計画にもあったが、ひとり親家庭の問題がとても身近なものとして感じられるようになった。母子家庭の苦しさは分かるが、父子家庭も同じである。父子家庭は経済的に困窮していないので焦点が当てられることが少ないが、子供が精神的に貧困になっていく現状を目の当たりにしたことがある。経済的に困っていないため、手を差し伸べにくいものである。自分に何が出来るかを毎日のように考えている。困っている弱い立場の人たちに手を差し伸べることは重要であるが、困っていることすら自覚できておらず、声を上げられない立場の人にも思いを寄せられる人でありたいと強く感じた3年間であった。

谷野副会長

2期4年間委員を務めさせていただき、大変濃い経験となった。所属団体において数年前から議論に上がっているのが、「男女共同参画」「女性管理職の会」などの「男女」の性別の表記部分が、「誰でも」といったユニバーサルになる日が近いと期待している。これからは地域に戻ってお役に立てるよう活動していきたい。

名波委員

市の自治会連合会から、今年度初めて参加させていただいた。いかに自分の意識が低いか、勉強不足であるかを痛切に感じた1年間であった。いろいろと発言したが、自分に対する内省として申し上げたようなものである。これからも少しでも勉強して、お役に立てるようにならしていきたい。

藤井委員

2年間委員を務めさせていただいた。任期中にLGBTが話題になり、浜松市パートナーシップ宣誓制度に関わったことが強く印象に残っている。まだ改善していくことは多いと思うが、一步一步進んでいく必要があると感じた。

峰野委員

2年間委員を務めさせていただいた。ひとり親家庭やDV、性的マイノリティの問題等、自分が知らなかった、気付いていなかった部分がたくさんあることに気付かせていただいた。これは自分の反省であり、これから自分の周りに発信していくことが課題であると感じている。まずは自分の家庭から、地域から、所属団体から意見を発信していきたいと思う。

山本委員

4年間委員を務めさせていただき、現計画作成から関わらせていただいた。今回、計画の一部見直しの審議に関わり、浜松市の男女共同参画を推進する姿勢を感じることができた。男女共同参画の意識改革は計画等を作って終わりではなく、一人一人がきちんと意識を持っていないと進まないものであると感じた。委員は今回で終了であるが、勉強させていただいたことは多かったので、これからの活動に活かしていきたい。

犬塚会長

審議会に参加して、委員一人一人が男女共同参画に深い問題意識と見識を持ち、それぞれの立場から積極的な意見をされていて、その積極的な姿勢に大変感銘を受けた。浜松市も計画を作成しただけでなく、状況の変化に応じて、より良い方向へと見直しをしようとしており、その提案を受け、皆様からいただいた意見もまさしくその通りであると感じた。良い形で審議会を進めることができ、座長を務めていて心強いものであった。是非、この積極的な姿勢で次期も推進していただき、計画がより良いものになることがなによりである。

世界の流れにおいて、ジェンダー平等に向けて加速する状況において、日本の遅れが目立っている。コロナや問題発言が立て続けに起こった事が、かえって悪い事ばかりでなく、希望を見出す事ができる点もあったと思う。突然発生したものではなく、今まで潜在的にあった問題がコロナや問題発言により、鮮明に浮かび上がったことである。本日、ご意見にあった父子家庭の問題や防災の問題もそうである。これは時の

流れとして必然的なものにとらえ、マイナス面だけを考えるのではなく、チャンスに変えて、より男女共同参画の推進が実質的に実りのあるものとして、計画をさらに活かしていくことを願っている。委員の皆様には感謝するとともに、今後とも審議会がより良く進んでいくこと、計画が順調に、そして発展的に実行性のあるものとして進んでいくよう望む。

犬塚会長

本日の議事を終了する。

3 閉会

事務局

以上をもって、令和2年度第3回男女共同参画審議会を閉会する。